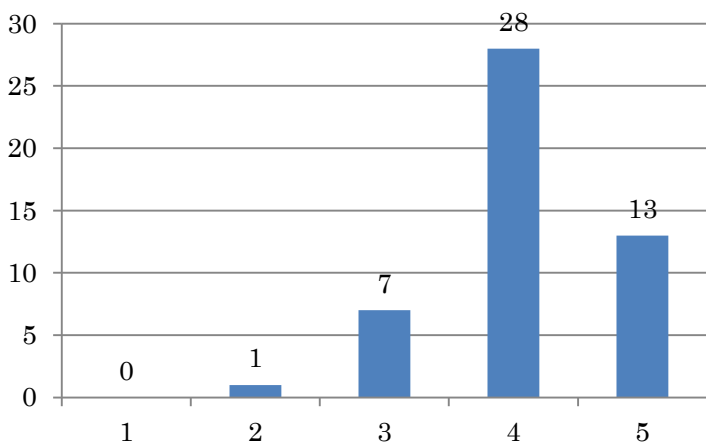
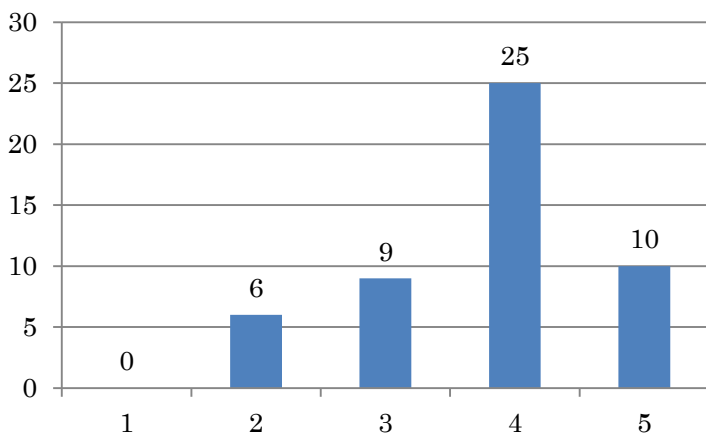


【各セッションの有意義度(5段階評価)】

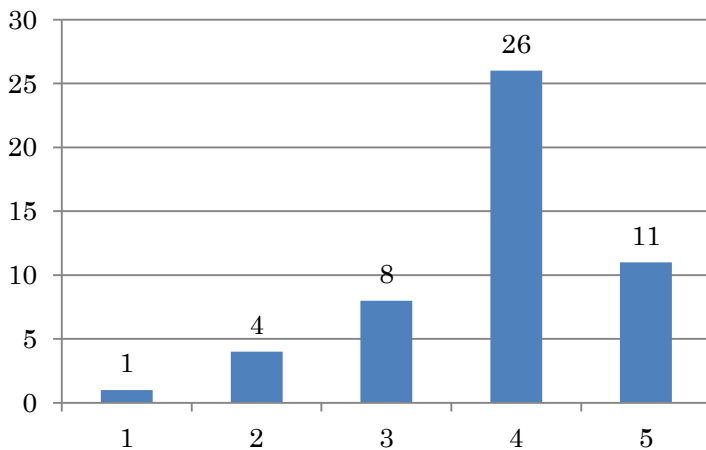
全体の総合評価 平均値：4.08(SD=0.70)



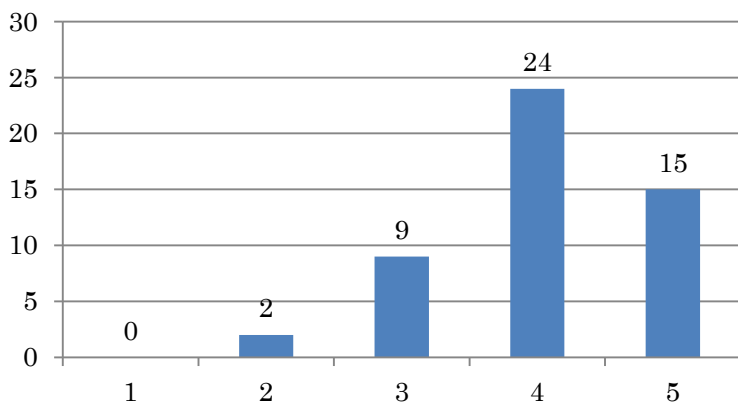
セッション 1：現在の大学教育の動向と京都大学のポリシー 平均値 3.78(SD=0.91)



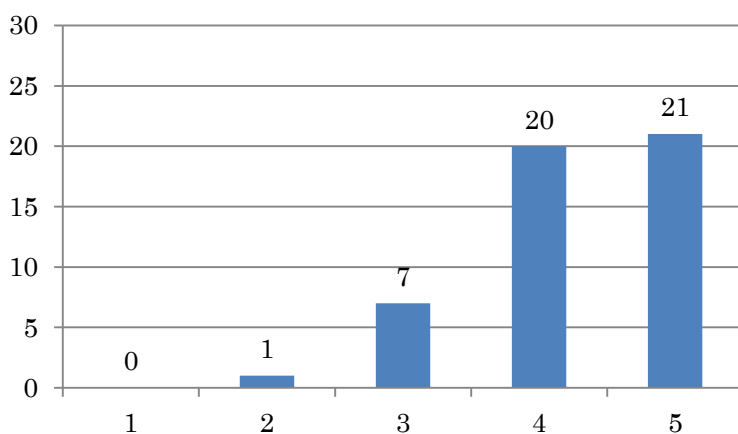
セッション 2：京大生の学習と生活 平均値 3.84(SD=0.93)



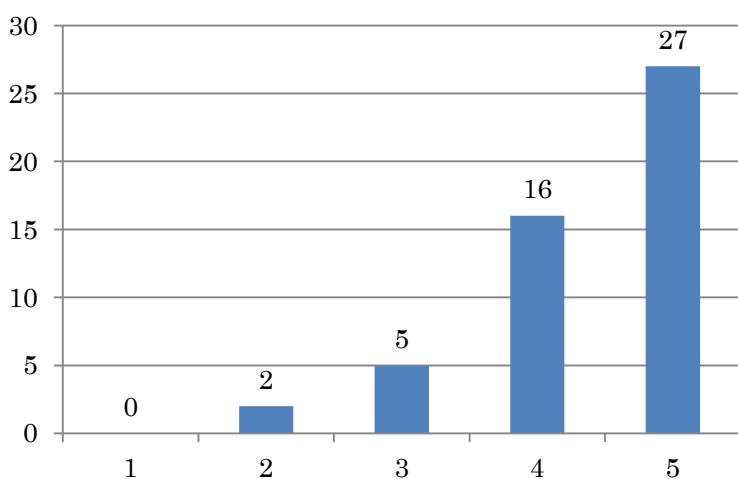
セッション 3：京大の教育的取組 平均値 4.04(SD=0.81)



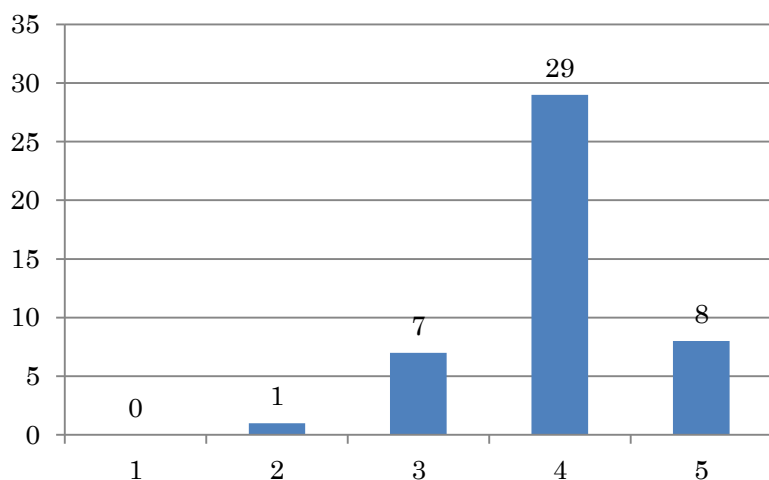
セッション 4：私の授業 平均値 4.24(SD=0.78)



セッション 5：グループ討論 平均値 4.36(SD=0.83)



セッション6 ラップアップ 平均値 3.98(SD=0.66)



【開催時期について】

適切であった 30名

どちらともいえない 16名

適切ではなかった 3名

適切ではなかった理由

- 本セミナーの出席について上司におしかりを受けた。「特定拠点助教に教育セミナーは必要ない！」とのこと。各学部・各研究科の教授会できちんと承認とれているのか非常に疑問だった。
- 着任してから半年ではなく、1サイクル経験した1年後が良かったです。
- フィールド調査に出る研究者には夏季の中央は出席するのが難しい。

【追加した方がよいと思われるプログラム】

■カテゴリーと記述例(N=25)

京大の教育や教育観

- 海外の大学では、研究の出力が低くとも、教育の良い（講義の人気のある）先生はテニユアとして採用される。日本の場合は、研究業績は評価の対象として扱われる一方で、教育への評価は無いに等しい。京大として、教育へのウェイトをどのようにしていくのかの方針に対する講義。
- 追加よりもむしろ、減らす方がよい。ただし、学外から来た教員、京大から離れていた期間が長い教育むけにまず、全体像を解説してほしい。パンフレットのタイトルになっているが、そもそもFDの意味が分からない。

私の授業

- 私の授業、のような小セミナー(20分くらい)が楽しく参考になるかも。
- 「私の授業」をもう1つくらい追加しても良いと感じた。

教育方法・授業法

- 授業のしくみについて（現行の単位やシラバスの書き方等）
- 何かひとつ「このようにするとよい」という方法論を入れておくとよいと思います。それが Tips のレベルでも。本来 Session4 はこのためにあったように感じました。

学生

- 学生の能力の変遷に関する客観的資料はありますか。京大生の意識調査の結果はありますか

でしょうか。

- 心に問題を持つ学生に対するケアなど。

大学院

- 大学院の指導に関して、学部とは異なるものがあると考えます。そのようなコースがあるとよいか
と思います。

セッション

- 近い分野毎のセッション（語学なら語学など）
- 質疑応答の時間、他を減らして。

【グループ討論で追加するとよいと思われるテーマ】

■カテゴリーと記述例(N=16)

学生評価・対応(含留学生)

- オーバーワークとなる（理想が高いために頑張りすぎる）学生に対して、現実生活に目を向けても
らうためのカウンセリング、指導方法について
- 学生側と教員側の意識・文化のギャップ
- 学生に学ぶ目的をどう意識付けるか？大学生になってそもそも何のために学んでいるのか？講義
を受けているか？学生の目的意識がうすい。
- 「留学生との向き合い方」文化の違いなどといった問題もあるが、京大生との学力や基礎知識の違
いに対して、どう対処すべきかについても問題になってくると思います。
- 学生の評価は何を基準にするべきか。（卒試の点数と割りきっていいのか）

アカハラ

- アカデミックハラスメントに関して、相談を受けたら、見たら—その対応方法—

その他

- 質問とは外れますが、**group5** はグループ討論ではありませんでした。中心にいる人が、演者なのか、
Fasilitator なのかは、はっきりすべきだと思います。**Small group** で、せっかく取り組んだのに、
内容が **passive Learning** では、**Session** の意義が疑われました。
- これから授業をもつ教員用
- 就職支援
- 企業技術者などへの教育（すなわち学生以外一般人への教育）を大学として如何に行うか、社会貢
献の形として考える。
- ポケットゼミの有効化について
- 教員の教育方法をいかに教育するか？
- ドクターコースへの進学率を上げるには？
- 世界の大学との競争の中で、いかに勝ち残るのか？

【セミナーの改善点】

■カテゴリーと記述例(N=31)

時間的な余裕

- 各講義の時間が短すぎる。もっと時間をとってゆっくり説明してほしい。
- 時間がタイトで中身が豊富だったので、すべての内容についていくことが出来なかった。もう少し
内容を減らしてもいいのでは・・・。

京大での教育とは何か

- 京大らしい教育とは、何か分からなかったのですが、もう少し分かり易く具体的に示してもらえたらと
思った。（抽象的答えはあるが、具体的には答えはない？）
- こういうのは京大生への講義として正しいのか、間違っているのかが正直わからない。（手取り足

取り教えること) (課題が多いこと) 京大外から着任したものにとって、その辺りもわからない状態です。何かフォローしてほしい。別に自由にやっていいなら良いのですが、他先生とお話すると、「京大スタイル」があるようで 考えすぎでしょうか？

対象

- 新任向けよりは、全員を対象としてアイデアを交換する場にした方がよいと思う。ワンテーマの研究会にしてはどうか。
- 難しいとは思いますが、新任だけでなく、このような企画がいろいろあるとよいと思います。

参加方法

- より多くの人に参加をうながすべき。新任でも簡単に欠席できてしまう。
- 新任教員は全員参加にすべきではないか。

京大生について

- 京大生の学習と生活の統計データは、聴衆としては役に立たせることのできない切り口。学部ごとに統計をとったデータを見せられても、対応のしようがない。
- 学生の教育がテーマだったが、学生の生の姿、意識、不満、問題などはよくわからなかったです。全国的に見て京大生がどのような特徴を持っているかのもとになっているアンケートの実施方法などをもっと具体的に知りたかったです。

その他

- 全学共通教育や中教審の答申案、話の中で触れた資料 (パンフ) を配布いただけるとよかった。
- グループ討論のグループ人数を 10 人以下 (6 人程度) にしてはどうか。同じテーマのグループが複数あってもかまわないと思う。限られた時間での討論を深めることが難しい。

【セミナーに参加してよかった点】

■ カテゴリーと記述例 (N=40)

他教員との交流

- 分野や年齢の違う (若い) 教員の考えや経験をグループ討論を通して知ることができた。
- 他分野の先生方と会う機会そのものがよい刺激になった。貴重なコメントが書いてある小冊子が非常に参考になった。

京大の方向性の確認

- 教育ということに大学としてより力を入れていこうとされているんだなと感じました。
- 京大の教育方針等をまとめて聞く機会がこれまでになかったので、大変参考になりました。

教育について考えるきっかけ

- 教育について、まじめに考える機会になった。
- 講義 (教育) の仕方については、教育を受けたことがなかったので、参考になり良かった。また、実際に講義をされている先生方が試行錯誤されて得られた知見 (意見) についても聞け、参考になった。

その他

- サポートリソースの冊子は役に立ちそう。全学的なプロジェクトの存在があることが分かったこと。
- 講義に集中して半日で終えていた点